

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの平成21年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>●学部・学科教育の水準の維持と、学生の修学意欲を向上させるためにリメディアル教育が実施されているが、学士力確保のための進級制度の基本設計については、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーが重要となる。これらの策定作業を進めることにより、進級制度の基本設計を検討されたい。【No.16】</p> <p>※リメディアル教育＝大学教育を受けるにあたって、不足している基礎学力を補うため行われる教育 ※ディプロマポリシー＝学位(単位)授与認定方針</p>	<p>●総合政策学部のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを策定した。今後、これらのポリシーを踏まえ、四年一貫教育を基本としたカリキュラム体系における進級のあり方についても検討しながら、カリキュラムの再編に取り組むこととした。</p>
<p>●高校生を対象とした公開講座の実施や連携先の高校を対象とした大学授業の提供など、いわゆる高大連携事業が推進されているが、引き続き現状分析、改善の検討を行い、内容の充実を図るとともに、同事業が円滑に行えるよう提携可能な項目のメニュー化を図られたい。【No.7】</p>	<p>●提携可能な項目についてメニュー化(大学見学会、大学・学部説明会、高等学校出前講座)を行い、大学ホームページに掲載している。 平成23年度以降、高等学校との進路指導懇談会(県内東部地区、西部地区の計2回実施)などにおいても周知を図ることとしている。</p>
<p>●教員個々の研究業績や研究成果は、公表し評価を受けることで教員の資質向上や地域への知の還元につながるものと考えられる。今後は、ホームページへの掲載やReaDへの登録など積極的な公表に努められたい。【No.95】</p> <p>※ReaD＝研究開発支援総合ディレクトリ(Directory Database of Research and Development Activities)の略称で、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が運営するデータベースサイト</p>	<p>●これまでもホームページへの掲載やReaDへの登録に努めてきたところであるが、並行して「教員研究業績データベース」の導入・平成23年度からの運用に向け作業を進めている。このデータベース導入により、教員個々の研究業績、研究成果について、ホームページへの掲載やReaDへの登録を一元的かつ容易に行うことが可能となり、これまで以上の公表が可能になると考えている。</p> <p>●県立大学メディアセンターでは学術機関リポジトリシステム「USAGI」(University of Shimane Academic and Global Institution repository)を構築し、公開している。これは、学内の研究者による学術研究成果物(学術雑誌論文、紀要論文等)を電子的に収集・蓄積し、インターネットを介して学内外に無料公開するシステムであり、このシステムを通じて研究成果の公表も行っている。</p> <p>●また、ホームページについても、分かりにくい等の意見があったため、新たにRubyを活用したCMSを用い、掲載情報の頻繁な更新による情報の鮮度アップを図ることとした。</p>

<p>評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)</p>	<p>島根県立大学の改善策</p>
<p>●北東アジア地域の研究について、各種の研究会、学術的な交流会、学外研究者を加えての共同研究、国際シンポジウムなどさまざまな試みがなされて研究が推進されている。</p> <p>研究成果を研究紀要において公表したり、NEARセンターの講座等で発表されているが、北東アジアの諸問題を研究する「知」の拠点として、更に、北東アジア研究の拠点としての存在感を一層示すために、北東アジアに関する叢書や高度入門書の刊行等着実にかつ計画的に推進されたい。【No.90、94】</p>	<p>●『北東アジア学創成叢書(仮称)』の第1巻刊行に向け着実に執筆を進めている。また、第2巻以降についても執筆に着手するための準備を行っている。</p> <p>●北東アジア超域研究の研究成果については、各研究員により原稿を執筆中であり、平成23年度内の刊行に向け着実に作業を進めていく。</p>